

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況

検出菌 ウイルス	2025年												2026年					
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月 ~5日	4月 ~12日	4月 ~19日
カンピロバクター	18	14	38	22	23	36	38	43	27	27	24	18	22	26	26	8	11	3
病原性大腸菌	23	107	90	91	71	93	78	97	83	48	44	52	51	47	53	18	19	8
腸管出血性大腸菌	0	0	1	0	2	3	3	2	0	1	0	0	2	0	1	0	2	1
サルモネラ	1	3	8	3	6	11	12	11	11	1	0	0	0	0	0	0	0	0
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	15	6	8	9	16	8	28	10	20	7	12	17	11	5	3	4	0
黄色ブドウ球菌 MRSA	9	9	14	13	9	11	5	16	10	10	4	13	11	7	18	3	4	0
腸炎ピブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	3	2	1	1	1	2	2	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0
ロタウイルス	2	8	9	10	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	1	3	4	4	2	1	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	0	11	37	10	6	2	2	0	3	0	0	1	8	8	9	2	1	2

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和8年第16週(4月13日~4月19日)

2. 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	9	結核	9		2	4		2		1
三類	6	腸管出血性大腸菌感染症	6	3				2		1
四類	1	レジオネラ症	1					1		
五類	12	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1			1				
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1				1			
		水痘(入院例)	1			1				
		梅毒	5	1				3		1
		播種性クリプトコックス症	1					1		
		百日咳	3	1						2

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
北 部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

■コメント

1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

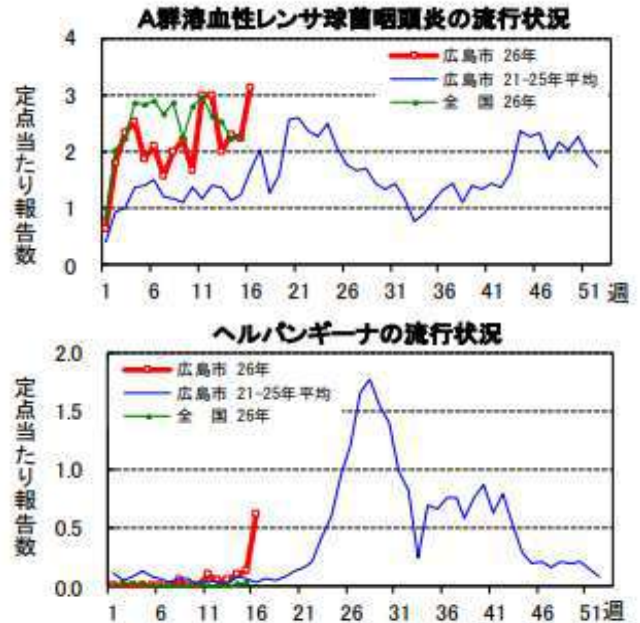
定点当たり3.14人の報告がありました。感染経路は、飛沫感染や接触感染で、2～5日の潜伏期を経て、突然の発熱、のどの痛み、莓舌などの症状が現れます。手洗い、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

2 ヘルパンギーナ

定点当たり0.62人と、例年同時期と比べて多くなっています。いわゆる「夏かぜ」の一種で、発熱とともに、喉に痛みと水疱が現れます。感染経路は、飛沫感染、接触感染、糞口感染で、回復後も2～4週間程度、便中にウイルスが排泄されます。手洗いの励行、オムツの適切な処理など、感染予防対策を心がけましょう。

3 腸管出血性大腸菌感染症

2件の報告があり、今年の累計は22件となりました。感染予防のため、加熱が必要な食品は十分に加熱し、生野菜は十分に洗いましょ。また、調理の前、食事の前、トイレの後などは、せっけんと流水で手を洗いましょ。



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号	急増減		前週と比較しておおむね1:2以上の増減
												↑	↓	
ARI	急性呼吸器感染症(ARI)	1781	52.38			小児科	突発性発しん	3	0.14	0.37		↑	↓	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
	インフルエンザ	14	0.41	1.69	↓		ヘルパンギーナ	13	0.62	0.04		↑	↓	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
	新型コロナウイルス(COVID-19)	11	0.32				流行性耳下腺炎	-	-	0.01		↑	↓	ほとんど増減なし
小児科	RSウイルス感染症	7	0.33	0.76		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-				
	咽頭結膜熱	4	0.19	0.40			流行性角結膜炎	4	0.50	0.88				
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	66	3.14	1.65	↑	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-				
	感染性胃腸炎	116	5.52	7.97	↑		無菌性髄膜炎	-	-	-				
	水痘	7	0.33	0.10			マイコプラズマ肺炎	2	0.33	0.17				
	手足口病	2	0.10	0.42			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-				
	伝染性紅斑	1	0.05	0.17			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.26				
												急性呼吸器感染症(ARI)定点数(内科・小児科)	34	
												小児科定点数	21	
												眼科定点数	8	
												基幹定点数	6	

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	42	30歳代、70歳代
3	腸管出血性大腸菌感染症	2	22	60歳代・O103、70歳代・O血清群不明
4	レジオネラ症	1	5	80歳代
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	4	90歳代
5	梅毒	3	28	20歳代、40歳代、50歳代
5	播種性クリプトコックス症	1	1	90歳代